

平成 12 年度
埋蔵文化財緊急発掘調査概報

垂水遺跡
高城遺跡
中ノ坪遺跡
豊鳴郡条里遺跡
高城B遺跡
片山遺跡
吉志部遺跡

2001年3月

吹田市教育委員会

序

吹田市におきましては、昭和49年度以来、国庫補助事業として埋蔵文化財の発掘調査を数多く行ってまいりました。

平成12年度におきましては、住宅の建築工事に伴い、10件の発掘調査を国庫補助事業として実施しました。このうち、高城遺跡の調査では、古墳時代の遺構・遺物を多数検出するに至り、これまで平安時代・中世の遺跡として知られていたところに、新たな見つけ加えることができました。

そして、このような成果を得ることができたのも、何よりも建築事業主およびそれに関わる方々のご協力を得ることができたからこそであり、さらにその根幹には市民の皆様の文化財に対するご理解があったことによるといえます。

今後、さらに本市の文化財保護行政を充実していくには、市民の方々のご理解を得ずにしては困難なものといえます。それゆえ、市民の皆様におかれましては、発掘調査をはじめとする本市の文化財保護行政に対し、今後ともより深きご理解とご協力を頂けますようよろしくお願ひ申し上げます。

平成13年3月

吹田市教育委員会

教育長 今 記 和 貴

例　　言

1. 本書は平成12年度国庫補助事業として実施した垂水遺跡、高城遺跡、中ノ坪遺跡、豊嶋郡条里遺跡、高城B遺跡、片山遺跡、吉志部遺跡の緊急発掘調査をまとめたものである。
2. 発掘調査地点は次のとおりである。

垂水遺跡	吹田市円山町75-11、円山町75-12・19、円山町75-4
高城遺跡	吹田市高城町1407-1
中ノ坪遺跡	吹田市岸部南2-34-3
豊嶋郡条里遺跡	吹田市泉町2-261-5
高城B遺跡	吹田市高城町4-17他、高浜町1326-14
片山遺跡	吹田市片山町1-2356-12
吉志部遺跡	吹田市岸部北1-300-6
3. 発掘調査の整理作業は吹田市岸部北4丁目10番1号、吹田市立博物館で実施し、資料の保管も同所において行っている。
4. 本文の執筆は、第1章及び第6章1・3 増田真木、第2・4・7・8章 西本安秀、第3・5章及び第6章2 賀納章雄
5. 図中の方位は磁北を示し、標高はT.P(東京湾標準潮位)を示す。
6. 発掘調査において、森本慎平、中竹伸佳、小林紀子、小林智子、柴田憲一、土屋浩之、木下和敏、武藤哲明、緒方昌、村上志津夫、前田和秀、桑原暢子氏をはじめ、多くの方々の協力を得ました。記して謝意を表します。

発掘調査参加者名簿

調査主体 吹田市教育委員会
調査指導 大阪府教育委員会文化財保護課
調査担当 吹田市教育委員会吹田市立博物館文化財保護係
　　　　　増田真木・西本安秀・賀納章雄
調査員 大城道則・佐藤健太郎・花崎晶子
調査補助員 森大樹・小川里美・大西文代・秋山芳恵

目 次

第1章 平成12年度発掘調査の契機	1
第2章 垂水遺跡の発掘調査	4
第3章 高城遺跡の発掘調査	7
第4章 中ノ坪遺跡の発掘調査	13
第5章 豊嶋郡条里遺跡の発掘調査	14
第6章 高城B遺跡の発掘調査	15
第7章 片山遺跡の発掘調査	18
第8章 吉志部遺跡の発掘調査	19

挿 図 目 次

第1図 発掘調査地点	1	第15図 調査区平面図	14
第2図 垂水遺跡発掘調査地周辺図	4	第16図 土層断面図	14
第3図 調査区平面図	5	第17図 高城B遺跡発掘調査地周辺図	15
第4図 土層断面図	6	第18図 調査区平面図(高城町4-17他)	16
第5図 高城遺跡発掘調査地周辺図	7	第19図 土層断面図(高城町4-17他)	16
第6図 調査区平面図	8	第20図 遺構平面図(高城町4-17他)	16
第7図 土層断面図	9	第21図 調査区平面図(高城町1326-14)	17
第8図 遺構平面図	10	第22図 土層断面図(高城町1326-14)	17
第9図 大溝埋土実測図	11	第23図 片山遺跡発掘調査地周辺図	18
第10図 遺物実測図	12	第24図 調査区平面図	18
第11図 中ノ坪遺跡発掘調査地周辺図	13	第25図 土層断面図	18
第12図 調査区平面図	13	第26図 吉志部遺跡発掘調査地周辺図	19
第13図 土層断面図	13	第27図 調査区平面図	19
第14図 豊嶋郡条里遺跡発掘調査地周辺図	14	第28図 土層断面図	19

図 版 目 次

- | | |
|-------------|----------------|
| 図版 1 垂水遺跡 1 | 図版22 高城遺跡16 |
| 図版 2 垂水遺跡 2 | 図版23 高城遺跡17 |
| 図版 3 垂水遺跡 3 | 図版24 高城遺跡18 |
| 図版 4 垂水遺跡 4 | 図版25 高城遺跡19 |
| 図版 5 垂水遺跡 5 | 図版26 高城遺跡20 |
| 図版 6 垂水遺跡 6 | 図版27 高城遺跡21 |
| 図版 7 高城遺跡 1 | 図版28 高城遺跡22 |
| 図版 8 高城遺跡 2 | 図版29 高城遺跡23 |
| 図版 9 高城遺跡 3 | 図版30 高城遺跡24 |
| 図版10 高城遺跡 4 | 図版31 高城遺跡25 |
| 図版11 高城遺跡 5 | 図版32 高城遺跡26 |
| 図版12 高城遺跡 6 | 図版33 中ノ坪遺跡 |
| 図版13 高城遺跡 7 | 図版34 豊鳴郡条里遺跡 1 |
| 図版14 高城遺跡 8 | 図版35 豊鳴郡条里遺跡 2 |
| 図版15 高城遺跡 9 | 図版36 高城B遺跡 1 |
| 図版16 高城遺跡10 | 図版37 高城B遺跡 2 |
| 図版17 高城遺跡11 | 図版38 高城B遺跡 3 |
| 図版18 高城遺跡12 | 図版39 片山遺跡 1 |
| 図版19 高城遺跡13 | 図版40 片山遺跡 2 |
| 図版20 高城遺跡14 | 図版41 吉志部遺跡 1 |
| 図版21 高城遺跡15 | 図版42 吉志部遺跡 2 |

第1章 平成12年度発掘調査の契機

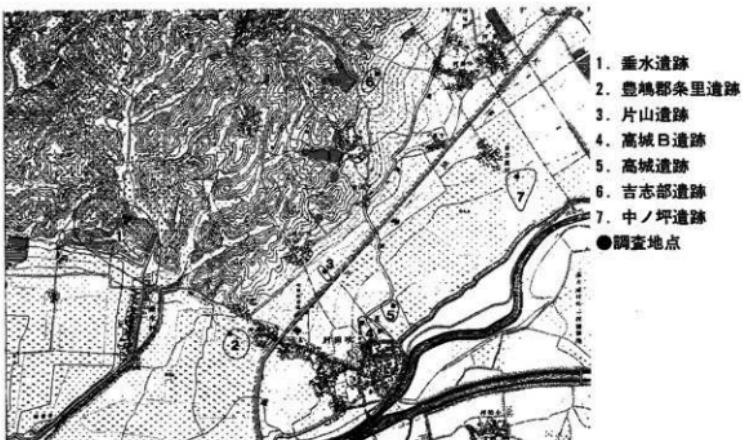
平成12年度国庫補助事業としての発掘調査は平成13年1月末まで、垂水遺跡3件、豊嶋郡条里遺跡1件、高城遺跡1件（試掘・発掘）、高城B遺跡2件、中ノ坪遺跡1件、片山遺跡1件、吉志部遺跡1件の7遺跡、10地点において実施した。

垂水遺跡は千里丘陵東南端から南方の沖積平野にかけて位置し、現在の行政区画では円山町から垂水町1丁目にかけて展開する。

遺跡は昭和初期に丘陵上で行われた住宅開発とともに弥生土器の出土が認められたことにより確認された。昭和30年すぎからグランドの建設とともに垂水神社背後の丘陵地帯が大きく削平され、遺跡の大半が壊滅的な破壊を受けたものと考えられる。この工事中に膨大な量の弥生土器、石器等の遺物が出土し、地元の研究者の収集活動が行われたのをはじめ、関西大学によって造成地の一部において調査が実施されたが、遺跡の全体の解明までには至っていない。

昭和45年から51年にかけて、垂水遺跡に対する初めての本格的な発掘調査が関西大学と吹田市によって実施され、弥生時代後期の竪穴住居址4棟、掘立柱建物跡、焼土坑を調査し、後期を主に前期から後期にかけての多量の弥生土器が出土するとともに、室町時代を中心とする中世の土塁墓、小祠跡、竈跡等を調査した。

発掘調査や地元研究者の採集資料の検討によって、本遺跡の丘陵上の集落は弥生時代前期新段階から成立し、中期末第IV式の急激な増加を経て、後期第V様式までその盛期が認められる



第1図 発掘調査地点 (1 : 40000)

が、庄内期までには廃絶したものと考えられた。また、それ以外にも旧石器時代の石器散布地及び室町時代を主とする墓地遺跡としての性格の一端が明らかにされた。

その後、丘陵部分の他地点での調査においては、明確な造構・遺物包含層等は確認されていないが、昭和55年から56年にかけて、垂水神社東方の丘陵裾部分の調査において、溝、土坑、柱穴等を調査するとともに、弥生時代から室町時代にかけての長期間にわたる遺物が出土し、丘陵下においても遺跡の展開することが明らかとなった（通算第7次調査）。

昭和62年以降、現在まで通算24次の調査を専用住宅の建設等にともない実施しており、その内、第9～13次、20次～24次調査は丘陵下の沖積平野部での調査である。調査では中期第IV式を中心とする弥生時代から中世にかけての造構・遺物が現地表下2m近くの深い地点で確認されている。中世では当地一帯で認められる条里地割に合致する小溝等を確認しており、南方の垂水南遺跡で確認されている鎌倉時代を主とする条里遺構と関連するものと考えられ、丘陵近くまで条里地割に基づく耕作地が展開していたものと考えられる。中世以外では特に弥生時代の溝等の造構を確認するとともに、第IV式を中心とする弥生時代の出土遺物の状況が良好なことから当該期の造構が丘陵下にも展開している可能性が高いと考えられる。いずれも小規模な調査が多く、全体の解明までには至っていないが、平成9年度の第21次調査では丘陵上の中世墓に相等する時期の集落の一端を確認し、平成10年度に実施した第24次調査で庄内期の土器とともに破碎され、溶解される途上と考えられる銅鏡（仿製方格規矩鏡か）の出土は注目されるものである。今年度は丘陵上の円山町75-11、円山町75-12他、円山町75-4の3地点において調査を実施した。

豊嶋郡条里遺跡は吹田市の西城から豊中市にかけての豊嶋郡域に施行された条里制土地区画の東限ライン上に位置すると考えられる吹田市泉町2丁目の吹田市文化会館建設地において、昭和58年に調査を実施し、条里地割のラインに一致する幅5m、高さ0.8mの堤防を有する幅1.1m、深さ0.5mの中世の水路を延長約100mにわたって確認した。確認された明確な造構は上記の中世水路や畦畔等の条里関連造構であるが、出土遺物には中世の土師器、瓦器、陶磁器、「蘇民将来」の呪符木簡等が認められるとともに、縄紋時代後期、弥生時代前期、古墳時代の土器等も認められ、条里関連遺跡以外にも周辺地に広範な時期の造構等の展開が予想されるものである。今年度は遺跡範囲北西端の泉町2-261-5において調査を実施した。

片山遺跡はJR吹田駅北口再開発に伴い確認・調査された遺跡であり、明確な造構は確認されていないが、中世を主とする時期の遺物の出土を確認している。今年度は遺跡北半部の片山町1-2356-12において調査を実施した。

高城遺跡は高城町に所在し、千里丘陵から沖積平野への地形的変換地点付近に立地する。平成4年度に住宅建築伴い確認・調査され、平安時代後半から中世にかけての造構・遺物が確認されている。高城B遺跡は高城遺跡の西南約70mの地点、高浜町、高城町及び朝日町に位置し、高城遺跡と同様の立地である。都市計画道路佐井寺片山高浜線拡幅工事に伴い、確認・調査され、縄紋時代、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世の造構・遺物を確認している。

高城遺跡、高城B遺跡等の所在する昭和町、高浜町、高城町等の千里丘陵から沖積平野への変換点付近は市域でも比較的古くから住宅開発等が進んだ地域であることから、遺跡の状況は明らかではなかったが、ここ数年間において住宅の建替等によって広範な範囲で遺跡の存在が確認してきた。但し、いずれも小規模な調査によるものが多く、遺跡の全体像の解明は今後の課題である。今年度の高城遺跡の調査は高城町1407-1において、高城B遺跡は高城町4-17他及び高浜町1326-14の2地点において調査を実施した。

吉志部遺跡は岸部北1丁目の標高20~30mの千里丘陵が沖積平野に向って傾斜する緩やかな斜面に立地する旧石器時代、縄文時代、弥生時代及び中世の遺跡である。関良太郎氏によつて昭和5年頃から丹念な石器の収集活動により遺跡の存在が明らかにされ、その資料は昭和56年に刊行された吹田市史第8巻に約130点の資料がまとめられた。その後、昭和50年に住宅建設に伴つて発掘が行われ、中・近世の水田の開発状況を確認するとともに弥生時代中期の土器が出土したが、旧石器、縄文時代の所見については得られなかつた。昭和55・56年、平成2・4年度にも関本氏が石器を採集した所有地の水田において確認調査を実施し、石器の出土は確認したが、明確な文化層の確認までには至っていない。

以上の調査において、出土した石器の特徴から、吉志部遺跡におけるナイフ形石器は国府期以降の高槻市塚原遺跡、同津之江南遺跡C地点等の資料と対応するが、特に中小型化のナイフ形石器を主とする塚原遺跡により類似性が認められ、剥片剥離技法、石器組成等も塚原遺跡との類似が指摘されている。また、有舌尖頭器が柳又型、小瀬ヶ沢型を含み、計8点認められるが、近畿地方の一遺跡における出土点数としては注目されるものである。

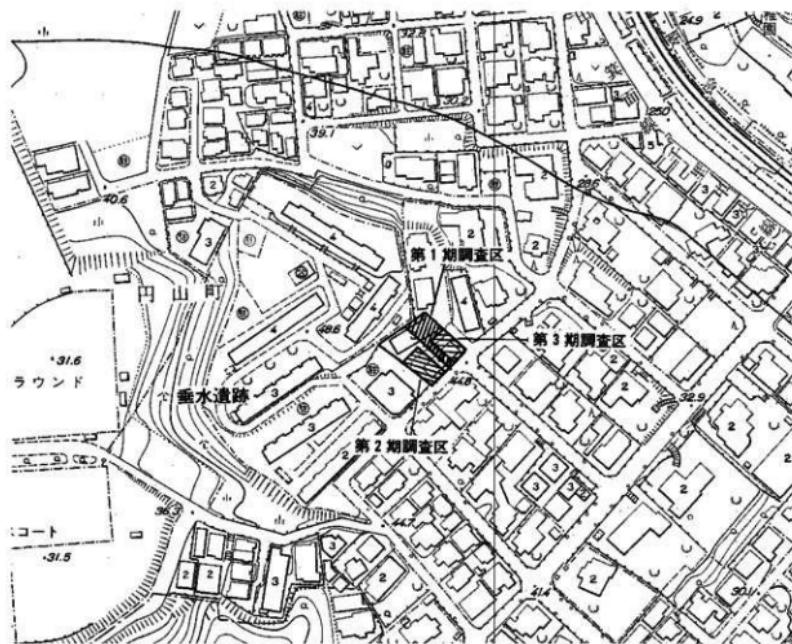
その後、平成4年度にて実施した通算第4・5次調査では遺跡西部において計90点以上の石器を確認し、内4点のナイフ形石器（国府型ナイフ形石器1点含む）が出土するとともに、平成5年度に実施した7次調査では多数の旧石器が出土するとともに礫群を確認した。今年度は遺跡北東端近くの岸部北1-300-6において調査を実施した。

中ノ坪遺跡は昭和57年に大阪学院大学校舎建設工事に際して中世の遺物の出土が認められたことにより確認された。その後は本格的な調査が実施されることなく、遺跡の実態は明らかではなかったが、平成9年度にはマンション建設に伴い、発掘調査が実施され、古墳時代前半期と考えられる造構面を確認し、柱穴、土坑、溝等の造構を確認するとともに弥生土器、布留式土器等が出土し、古墳時代集落の一端を確認した。今年度は遺跡北東端近くの岸部南2-34-3において調査を実施した。

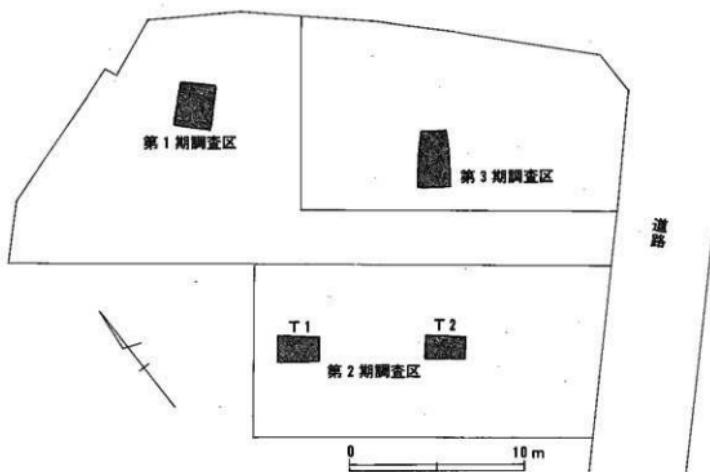
第2章 垂水遺跡の発掘調査

1. 調査の経過

垂水遺跡は、旧石器時代～中世の複合遺跡である。今回の調査は、1～3期にわたり、いずれも住宅の建築に伴う事前調査で、遺構・遺物等の包蔵状況を確認するために重機を使用して実施した。第1期は平成12年5月23日、吹田市円山町75-11に調査区1か所（調査面積4.8m²）、第2期は平成12年7月6日、円山町75-12・19に調査区2か所（調査面積6.5m²）、第3期は平成13年1月18日、円山町75-4に調査区1か所（調査面積6m²）を設定したものである。



第2図 垂水遺跡発掘調査地周辺図 (1:2500)



第3図 調査区平面図

2. 調査の成果

<第1期>

調査区は、現地表から約2.3mまで現代の盛土があり、その下には黄褐色砂質土（地山）が認められた。これらの土層では遺構・遺物は検出されなかった。

<第2期>

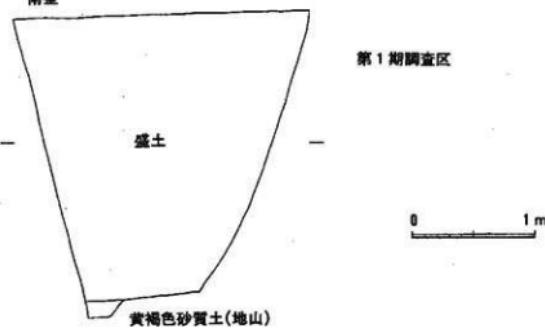
調査区は、T 1 では現地表から約 2 mまで現代の盛土があり、T 2 では現地表から約 1.6 mまで現代の盛土でその下に黄灰色砂質土層（地山）が確認された。遺構・遺物は検出されなかった。

<第3期>

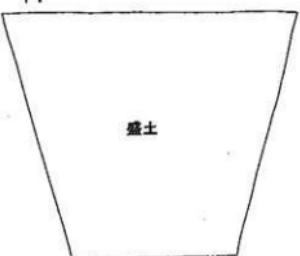
調査区の土層序は、基本的にⅠ層 盛土（1 現代）、Ⅱ層 淡黄灰色土(2)、褐色土(3)、Ⅲ層 灰色土(4)、暗灰色土(5)、Ⅳ層 黄灰色土(6)である。Ⅳ層は硬質の土層で地山と判断される。Ⅳ層は、西側に向かって落ち込んでいるが、落ち込みの堆積層であるⅢ層は軟弱な土層で近時の堆積層と判断されることから、宅地造成時の再堆積土と考えられる。これらの土層では遺構・遺物は検出されなかった。

以上のとおり、当地点で3期にわたる調査で埋蔵文化財は認められず、既に以前の造成で削平を受けているものと考えられる。

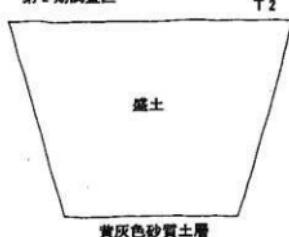
南壁



T 1

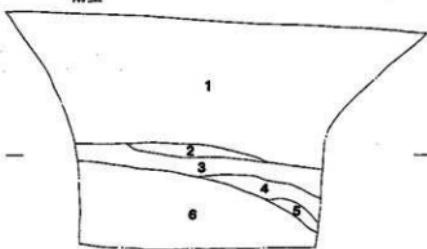


第2期調査区



T 2

南壁



第3期調査区

1. 盛土
2. 淡黃灰色土
3. 褐色土
4. 灰色土
5. 嗅灰色土
6. 黄灰色土(地山)

第4図 土層断面図

第3章 高城遺跡の発掘調査

1. 調査の経過

高城遺跡は、高城町・昭和町一帯に広がる遺跡である。これまでの発掘調査では、主に平安時代・中世の遺構・遺物が検出されている。

今回の発掘調査は、住宅の建築工事に伴い平成12年5月30日に、造構・遺物包含の有無の確認を目的に、調査トレーニングを2か所(T1・2)設けて試掘調査を行ったところ、中世以前のものと思われる遺物とともに造構が検出された。のことから、予定建築工事が着工された場合、一部で遺跡が破壊されると判断されたため、その影響を受ける部分について拡大調査を実施したものである。拡大調査については、平成12年6月2~8日に約56m²の調査区を設けて、重機および人力掘削によって実施した。

2. 調査の成果

a. 基本土層序

調査区を掘削したところ、基本的に現代盛土層〔第1層〕、灰色砂質土（鉄分混じる）層〔第2層〕、灰色砂質土（褐色混じる）層〔第3層〕、灰褐色砂質土層〔第4層〕、橙灰色砂質土～粘土層〔第5層〕の堆積が認められた。このうち、第4層内で古墳時代を中心とした遺物の包含が認められ、第5層上面において多数の遺構が検出された。

b. 遺構

ピット、溝、土坑などが検出された。全体的にみると、調査区や南よりで東西方向にのびる大型の溝があり、その北側においてピットが多数検出され、その南側では溝状の遺構が比較的多く認められた。以下、主だった遺構についてみておく。



第5図 高城遺跡発掘調査地周辺図 (1:5000)

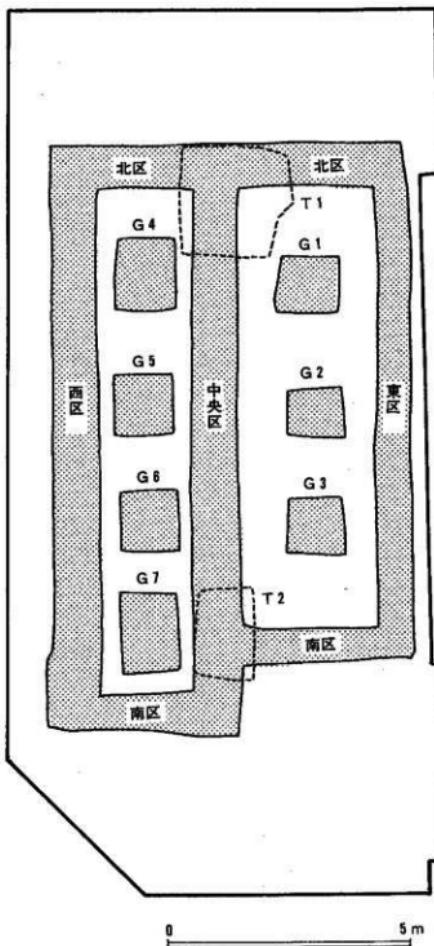
(溝)

大溝は、N 65° Eの方位でのび、幅90cm～2mを測り、その深さは東区で約20cm、中央区・西区で40cm、西区では部分的に60cmと、西側で深くなっていた。また溝幅についても西側で広くなり、G 6において北側にその幅を広げる箇所が認められた。しかし、これについては、調査区の制限から明確にし得なかったが、大溝が土坑などと重複して、このような形状をなしているという可能性も考えられる。

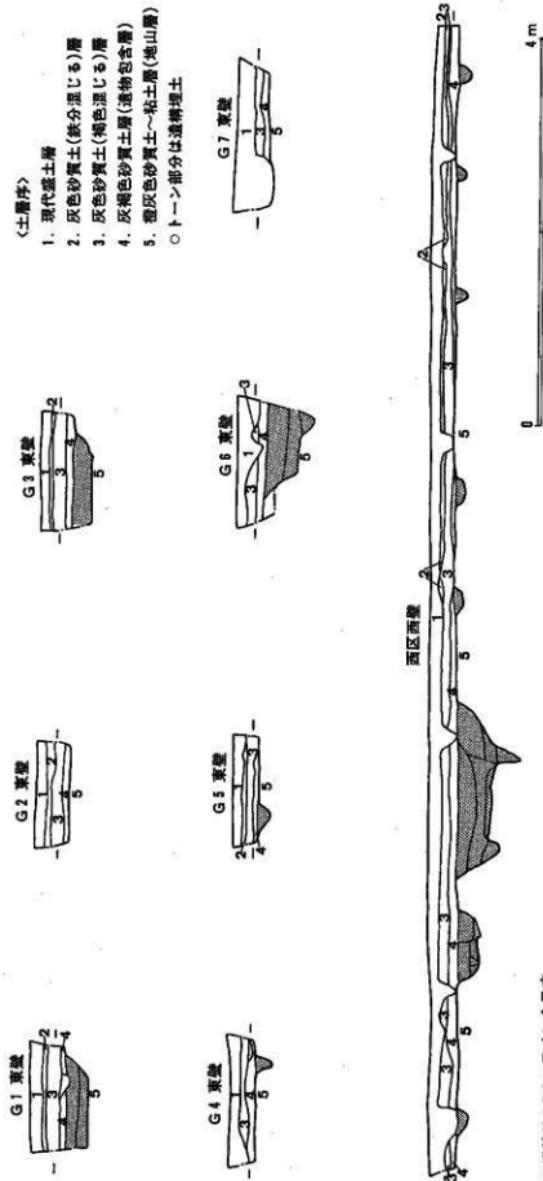
溝1と溝2は、東区の大溝の南側で検出された。溝1は幅約40cm、深さ10cmを測り、溝2は幅約60cm、深さ5cmを測った。2条とも大溝とほぼ同じ方位を示す。

溝3、溝4、溝5は、それぞれ中央区、G 7、西区において検出された。そして溝3と溝5を平面的にみると、その方向性（溝3：N 80° E、溝5：N 85° W前後）から一連のもののようにみえる。しかし、この間には溝4がやや異なる方向（N 67° E）をもっての

びており、これらが一連のものであるかどうかの判断は難しい。なお、溝3は幅約60cm、深さ約10cm、溝4は幅約30cm、深さ約5cm、溝5は幅約40cm、深さ7～8cmで、深い部分で約20cm



第6図 調査区平面図

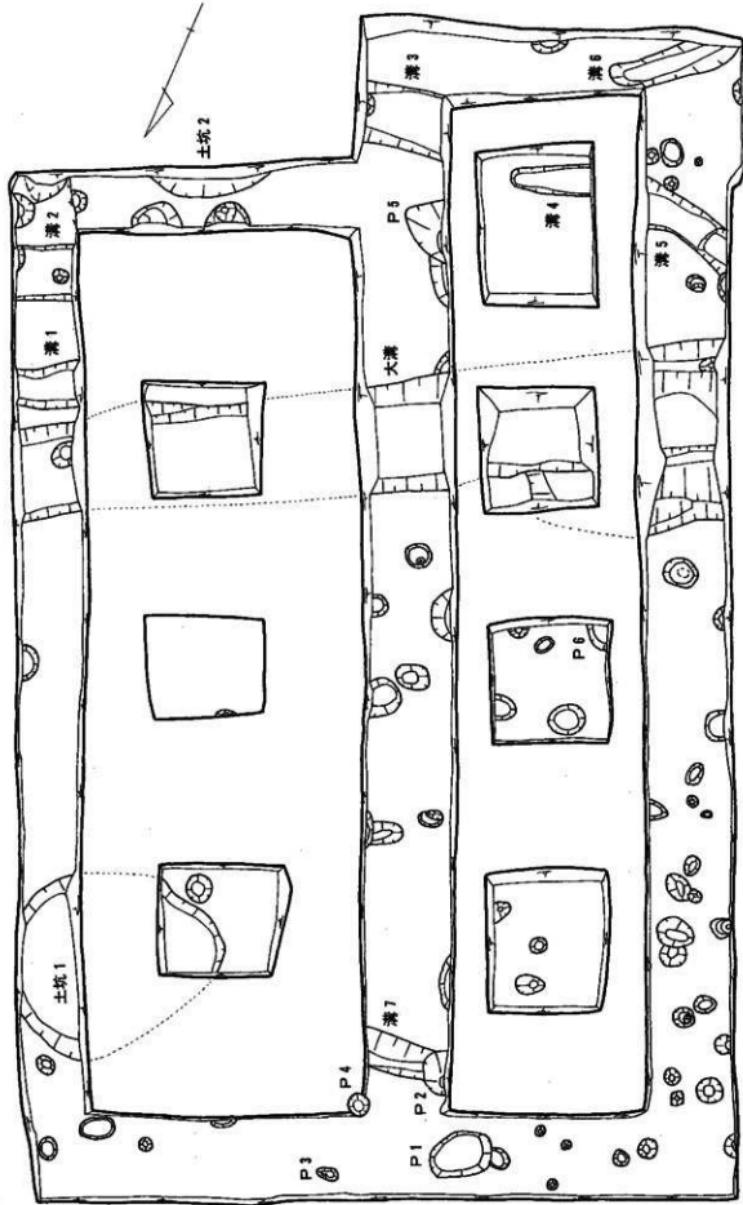


第7図 土層断面図

*標線はT.P 5mラインを示す。

4 m

第8图 遗址平面图



を測った。

溝6は、調査区南西隅で検出された。幅約30cm、深さ約10cm、方位はN50°Eを示す。

溝7は、中央区北側で検出された。この箇所はちょうど試掘調査のT1部分にあたるが、試掘段階ではこれを確認することはできなかった。幅約40cm、深さ約30cmを測り、N80°Eの方位をもつ。

(土坑)

土坑1は、東区とG1にて部分的に検出したものであるが、2m前後の径をもつとみられる大型の土坑である。深さは検出部分で約20cmを測った。

土坑2は、南区にて一部を検出したもので、その形状は明らかでないが、深さは検出部分で約15cmを測った。

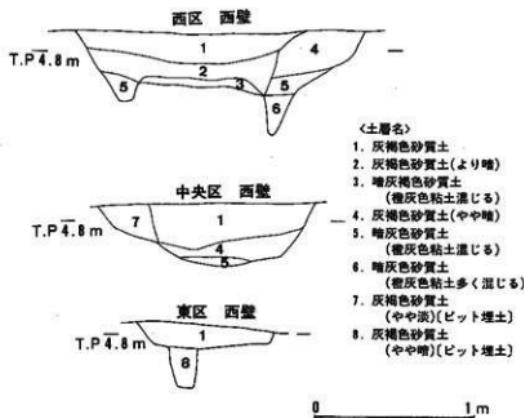
(ピット)

試掘調査においてはT1内にてピット(P1~4)が4基、T2内にて1基のピット(P5)が検出されたが、このうち、P1・2・5については拡大調査においても再確認することができた。ちなみに、P1は深さ約23cm、P2は約35cm、P5は約25cmを測り、しっかりと掘り込まれていた。そして、この他にもしっかりと掘り込まれているものが多数あり、柱穴として考えられるものも多く認められた。しかしながら、今回の調査では調査区の制限もあり、建物跡として確認できるものはなかった。

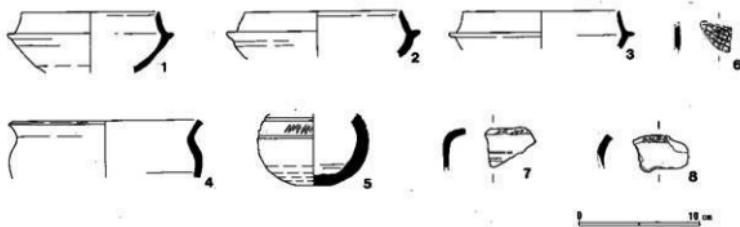
c. 遺物

遺物については古墳時代のものを中心に、弥生時代前期の土器片が若干混じる形で検出された。それらは細片が多く、図化できるものは少なかった。

1~6は、大溝内からの出土遺物である。1~3は須恵器杯身で、その上部はヨコナデ調整されており、1については外面下半にヘラケズリが認められるが、2・3については下半部分が欠損しているため不明である。4は須恵器壺である。残存部分については内外面ともヨコナデ調整されている。5は須恵器縁である。外面下半から底部にかけてヘラケズリが施され、そ



第9図 大溝埋土実測図



第10図 遺物実測図

の上半についてはヨコナナデ調整されている。また底部がヘラで切られて平らとなっている。6は韓式土器の壺と思われる破片である。表面に格子目の叩き痕がみられる。

7・8は弥生土器壺である。7はP2内、8はP6内にて古墳時代の遺物に混入する形で検出された。2点とも胎土に1mm程度の砂粒を多く含み、口縁部に刻み目が施されている。そして7については体部に沈線が2条認められる。

このほか図化できなかったが、布留式土器をはじめとする土師器や内面すり消しの施された初期須恵器壺なども検出された。

3. まとめ

今回検出された遺構については、先述したようにその空間的配置に特徴がみられた。それは、大溝の北側において柱穴を含むと思われるピットが多数検出され、その南側で溝状の遺構が比較的多く検出されたというものである。このことから、ピットの多い大溝北側においては、幾棟かの建物跡が展開しているものと考えられ、大溝の南側ではそれとはまた異なる空間が広がっていた可能性が考えられる。そして大溝はこれらの空間を区画する役目を果たしていたのではないかという想定もできる。しかし、これについては、調査区の範囲に限りもあり、現時点では推測の域を越えないものである。ただ、高城遺跡を考える上において、今後この大溝の存在が大きなポイントとなる可能性は高いものと考えられる。

さて、今回検出された遺構の時期であるが、大溝内においては6世紀代の須恵器が比較的まとまって検出された。図化したものでは、杯身が6世紀前半のものと考えられるが、隙がそれよりも時期的に若干下るとみられることから、大溝については6世紀後半という時期が考えられる。そして、他の遺構についても出土遺物が大溝と似た様相を示しており、これらもおおむね6世紀代に相当するものであろうと考えられる。ただし、遺構の中には重複関係をもつものもあり、若干の時期的な幅はあるものと考えられる。

第4章 中ノ坪遺跡の発掘調査

1. 調査の経過

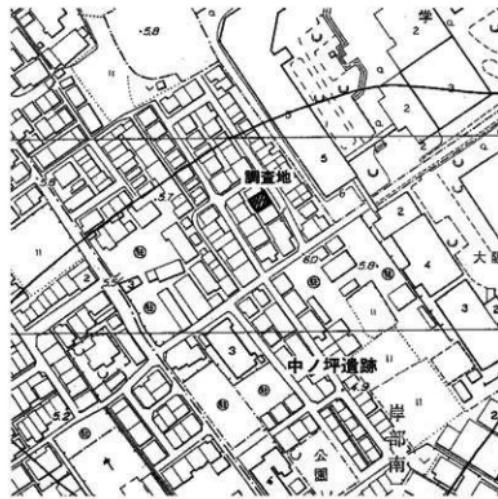
中ノ坪遺跡は、弥生時代～中世の複合遺跡である。

今回の調査地は吹田市岸部南2丁目34-3で、中ノ坪遺跡の北部に位置する。住宅の建築に伴い、遺構・遺物の包蔵状況を確認するために実施した。

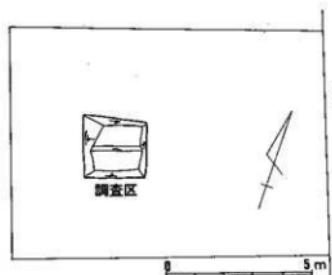
調査については、平成12年8月4日に試掘トレンチ1か所（調査面積4m²）を設定し、重機を使用して実施した。

2. 調査の成果

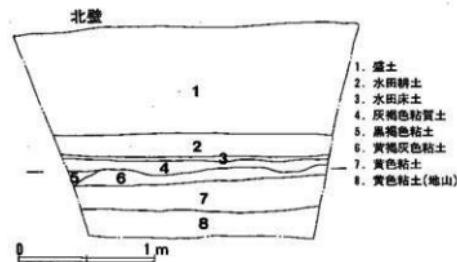
調査区の土層序は、基本的に盛土（1 現代）、水田耕土・床土（2・3 現代）、灰褐色粘質土（4）、黒褐色粘土（5）、黄褐色灰色粘土（6）、黄色粘土（黒灰色粘土混じり、7）、黄色粘土（8）である。（8）層は硬質の粘土層であり、地山と判断される。（4）層以下、粘土を主体としたほぼ水平な堆積層が認められた。これらの土層では遺構・遺物は検出されなかった。



第11図 中ノ坪遺跡発掘調査地周辺図 (1:2500)



第12図 調査区平面図



第13図 上層断面図

第5章 豊嶋郡条里遺跡の発掘調査

1. 調査の経過

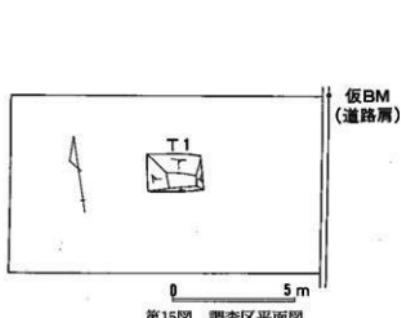
今回の発掘調査は住宅の建築に伴うもので、平成12年11月18日に調査トレンチを1か所設定して、造構・造物包蔵の有無の確認を目的として実施した。

2. 調査の成果

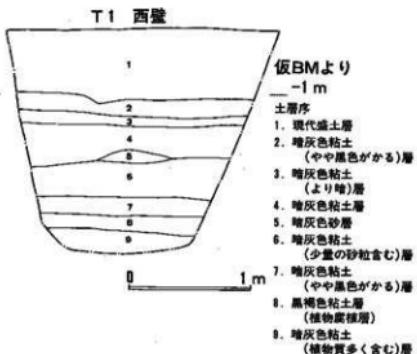
調査トレンチを掘削したところ、現代盛土層以下、主に暗灰色をした粘土層の堆積がみられ、現地表面から約1.6mの深さで植物腐植層（第8層）の堆積が認められたが、造構・造物については検出できなかった。



第14図 豊嶋郡条里遺跡発掘調査周辺図 (1 : 5000)



第15図 調査区平面図



第16図 土層断面図

第6章 高城B遺跡の発掘調査

1. 調査の経過

高城B遺跡での2件の発掘調査は高城町4-17他において平成12年11月24日に、高浜町1326-14において11月28日に住宅の建築に伴い、遺構・遺物の包蔵状況確認を目的として調査を実施した。

2. 高城町4-17他における調査の成果（第18・19・20図）

調査トレンチを1ヶ所設定し、掘削を行ったところ、現代盛土層（第1層）以下、暗灰色土層（第2層）、暗灰色土と暗茶褐色粘土の混合層（第3層）、暗茶褐色粘土層（第4層）、黃灰色粘土層（第5層）の堆積が認められた。この内、第4層内において古墳時代のものと思われる土師器片を3点検出した。そして、第4層下の第5層上面をベースとしてピット2基を検出することができた。ピット1は径約35cm、深さ約5cmを測り、ピット2は径約15cm、深さ約5cmを測る。おそらく、これらは検出状況より古墳時代に属するものと考えられ、当地に古墳時代の遺構・遺物が展開していることが明らかとなった。

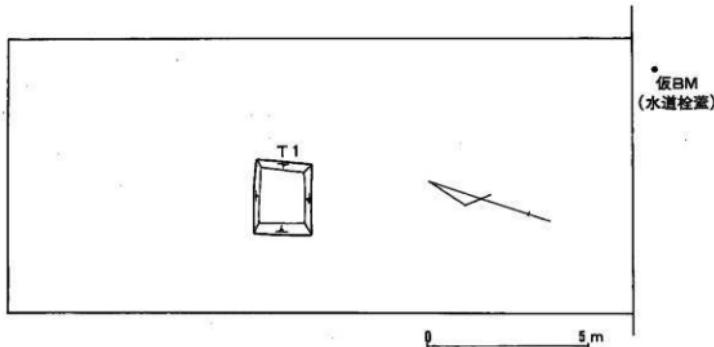
3. 高浜町1326-14における調査の成果（第21・22図）

敷地のほぼ中央部分に設定したトレンチ南端において、現地表下1.06mで地山層（9・10）を確認したが、北側に向って落ち込んでいき、トレンチ内では0.68mの比高差が認められる。

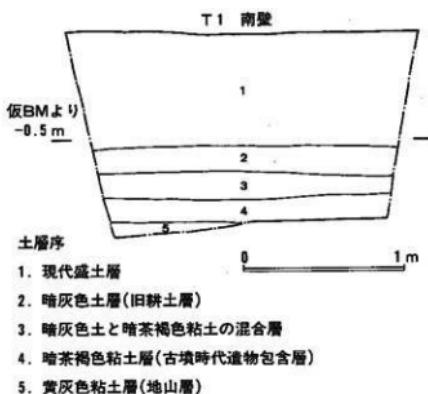
平成7年度に実施した都市計画道路に伴う調査では今回の調査地点の東側に近接する8-1区において平安時代の方位N-73°-Eにとる幅4m前後、深さ0.85mの溝を確認し、また、北西約250mの地点で実施した平成11年度の調査においては5世紀後半から6世紀代と考えられ



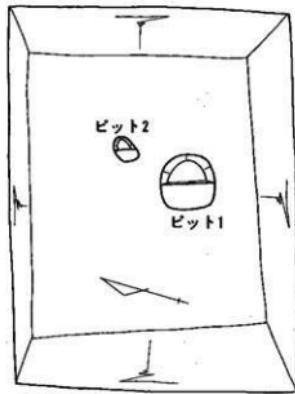
第17図 高城B遺跡発掘調査地周辺図（1：5000）



第18図 調査区平面図 (高城町4-17他)

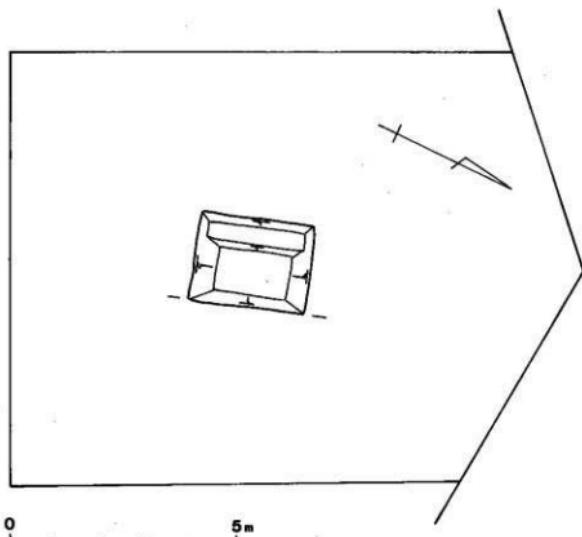


第19図 土層断面図 (高城町4-17他)

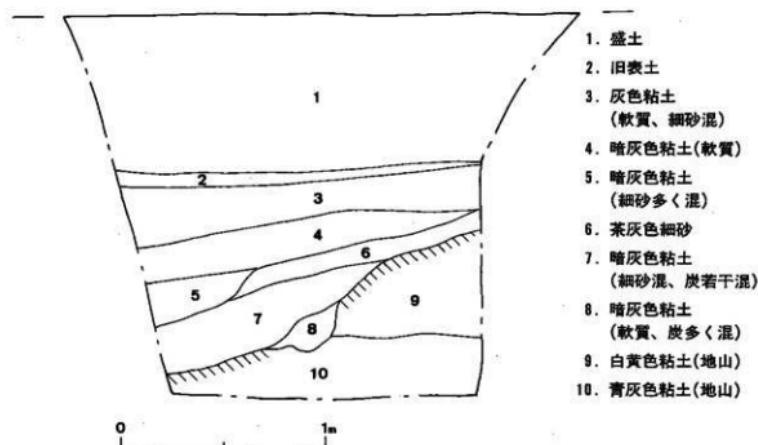


第20図 遺構平面図 (高城町4-17他)

る遺構面で、南東に向って大きく落ち込んでいく状況を確認しているが、今回の調査で確認した落込みの性格については、これらの遺構と関連するものかどうかを含めて遺物の出土が全く認められないことや既設建物の基礎の関係から調査地点が限定されたために明確には判断できなかった。



第21図 調査区平面図（高城町1326-14）



第22図 土層断面図（高城町1326-14）

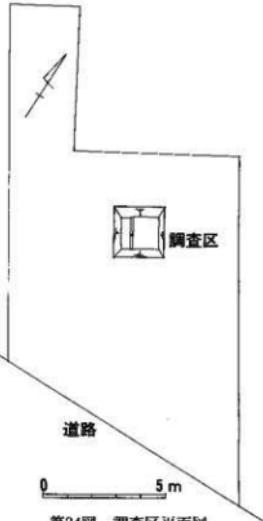
第7章 片山遺跡の発掘調査

1. 調査の経過

片山遺跡は、古墳時代～中世の遺跡である。今回の調査は、吹田市片山町1丁目2356-12において、住宅の建築に伴う事前調査として、造構・遺物の包蔵状況を確認するために実施した。調査については、平成12年12月22日に試掘トレンチ1か所（調査面積4m²）を設定し、重機を使用して実施した。



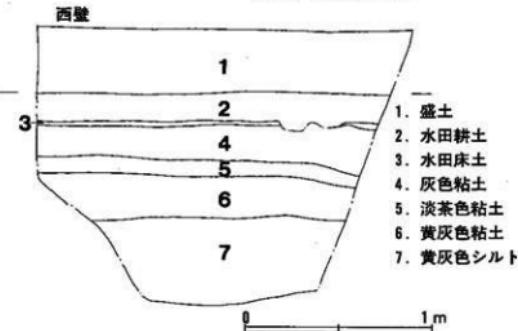
第23図 片山遺跡発掘調査地周辺図 (1 : 2500)



第24図 調査区平面図

2. 調査の成果

調査区の土層序は、基本的に盛土（1 現代）、水田耕土・床土（2・3 現代）、灰色粘土(4)、淡茶色粘土(5)、黄灰色粘土(6)、黄灰色シルト(7)である。地表下約0.8mの黄灰色粘土層(6)はややシルト質で硬質の粘土層であり、地山と判断される。これらの上層では造構・遺物は検出されなかった。



第25図 土層断面図

第8章 吉志部遺跡の発掘調査

1. 調査の経過

吉志部遺跡は、旧石器・縄文時代と中世の遺跡である。今回の調査地は吉志部遺跡の東端部に位置する。調査は、吹田市岸部北1丁目300-6において住宅の建築に伴う事前調査として、造構・遺物の包蔵状況を確認するために実施した。

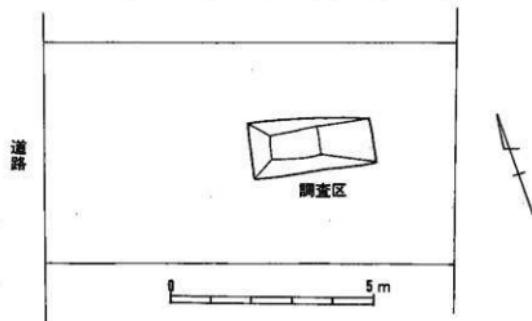
調査については、平成13年1月26日に試掘トレンチ1か所（調査面積3.6m²）を設定し、重機を使用して実施した。

2. 調査の成果

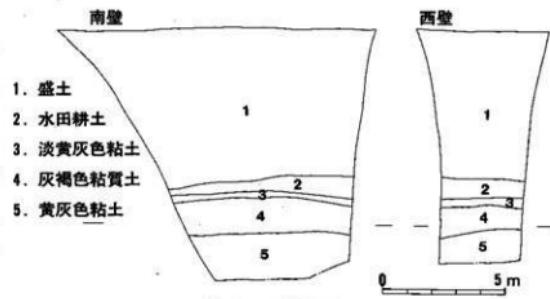
調査区の土層序は、基本的に盛土、水田耕土以下、淡黄灰色粘土(3)、灰褐色粘質土(4)、黄灰色粘土(5)で、地表下約2.1mまで掘削した。(4)層は水平に堆積した粘質土層で、時期は明確ではないが、中世以降に当地が開発された際の土層とも考えられる。(5)層は硬質の粘土層で南へ傾斜するのが認められ、地山と判断される。これらの土層では造構・遺物は検出されなかつた。



第26図 吉志部遺跡発掘調査地周辺図 (1:2500)



第27図 調査区平面図



第28図 土層断面図

報告書抄録

ふりがな	へいせい12ねんどまいぞうぶんかざいきんきゅうはくつちょうさかいほう						
書名	平成12年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報						
副書名	垂水遺跡 高城遺跡 中ノ坪遺跡 豊嶋郡条里遺跡 高城B遺跡 片山遺跡 吉志部遺跡						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編集者名	増田真木 西本安秀 賀納章雄						
編集機関	吹田市教育委員会						
所在地	〒564-0041 大阪府吹田市泉町1丁目3番40号 TEL(06)6384-1231						
発行年月日	西暦 2001年3月30日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北 緯 ° °'	東 經 ° °'	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
垂水遺跡	吹田市垂水町 75-11	27205	86	34° 45' 51"	135° 30' 29"	20000523	4.8	建物の 建築
垂水遺跡	吹田市垂水町 75-12, 19	27205	86	34° 45' 51"	135° 30' 29"	20000706	6.5	建物の 建築
垂水遺跡	吹田市垂水町 75-4	27205	86	34° 45' 51"	135° 30' 29"	20010118	6	建物の 建築
高城遺跡	吹田市高城町 1407-1	27205	116	34° 45' 37"	135° 31' 57"	20000530~ 20000608	56	建物の 建築
中ノ坪遺跡	吹田市岸部南 2-34-3	27205	97	34° 45' 49"	135° 32' 38"	20000804	4	建物の 建築
豊嶋郡条里遺跡	吹田市泉町 2-261-5	27205	95	34° 45' 22"	135° 31' 03"	20001118	3	建物の 建築
高城B遺跡	吹田市高城町 4-17他	27205	117	34° 45' 25"	135° 31' 55"	20001124	4	建物の 建築
高城B遺跡	吹田市高浜町 1326-14	27205	117	34° 45' 30"	135° 31' 49"	20001128	5	建物の 建築
片山遺跡	吹田市片山町 1-2356-12	27205	110	34° 45' 56"	135° 31' 36"	20001222	4	建物の 建築
吉志部遺跡	吹田市岸部北 1-300-6	27205	45	34° 46' 40"	135° 31' 54"	20010126	3.6	建物の 建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
垂水遺跡	集落遺跡	弥生時代・中世	なし	なし	なし
高城遺跡	集落遺跡	古墳時代	溝、ピット、土坑	須恵器、土師器、房生土器	なし
中ノ坪遺跡	集落遺跡	古墳時代・中世	なし	なし	なし
豊嶋郡条里遺跡	条里遺跡	中世	なし	なし	なし
高城B遺跡	集落遺跡	古墳時代	ピット	土師器	高城町4-17 後にて検出
片山遺跡	集落遺跡	古墳時代	なし	なし	なし
吉志部遺跡	集落遺跡	旧石器・繩文時代	なし	なし	なし



垂水遺跡遠景(南西から)



調査前近景(南から)

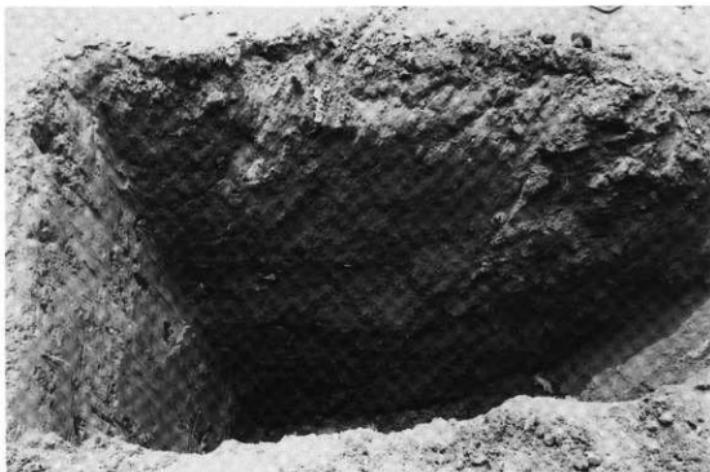
図版2
垂水遺跡2



第1期調査区(東から)



第1期調査区(西から)



第1期調査区南壁(北から)



第1期調査区東壁(西から)



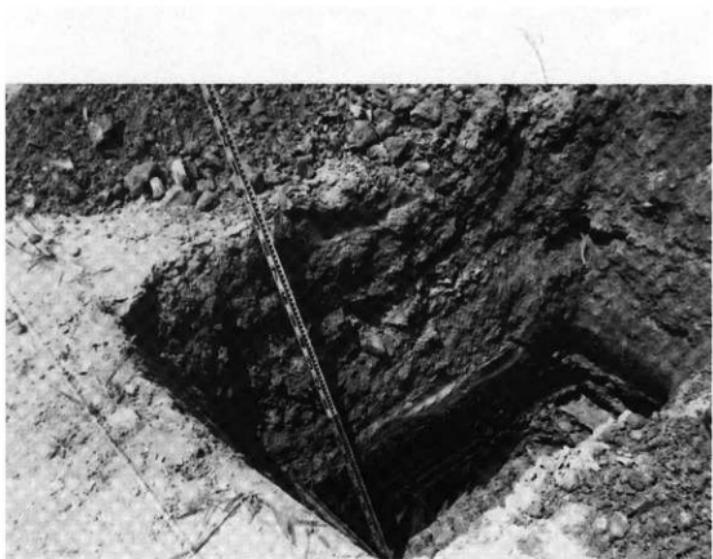
第2期調査T1(南西から)



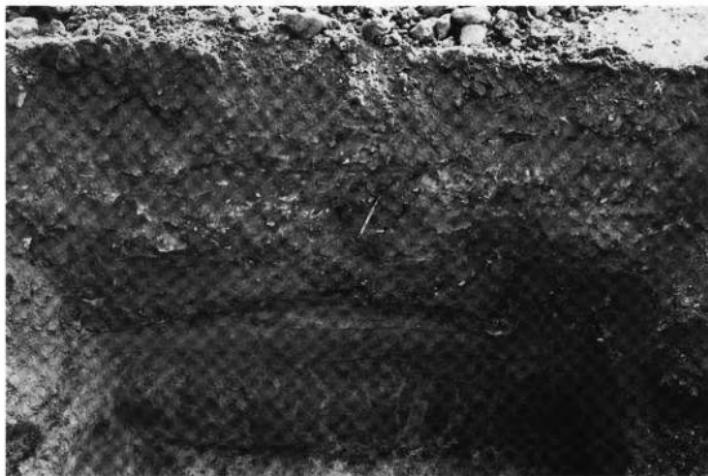
第2期調査T1西壁



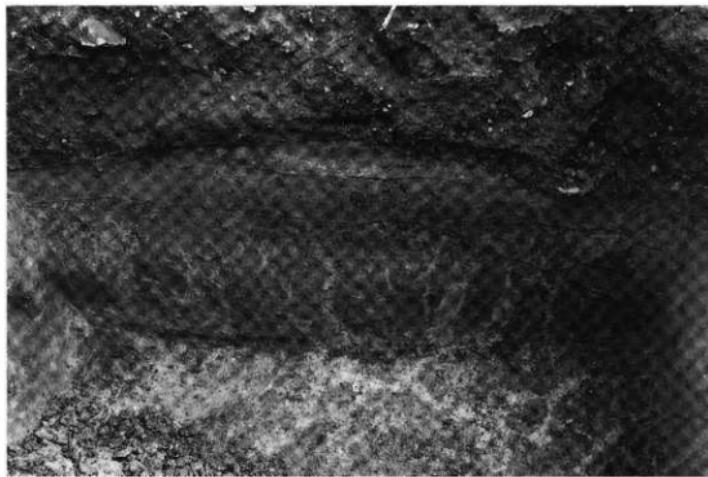
第2期調査T2(南西から)



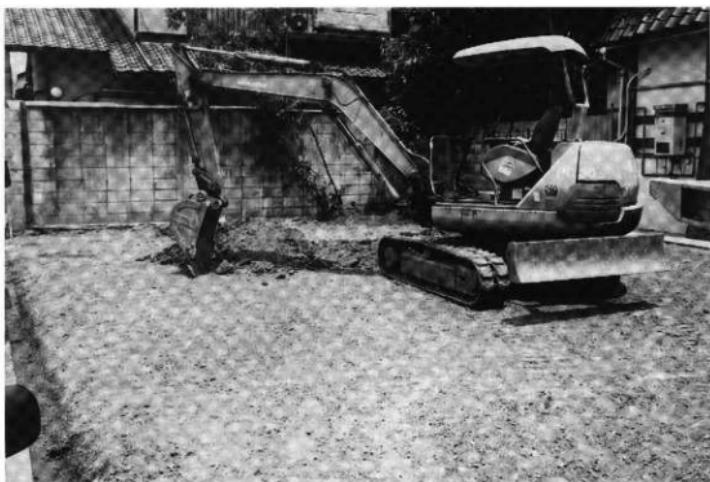
第2期調査T2西壁



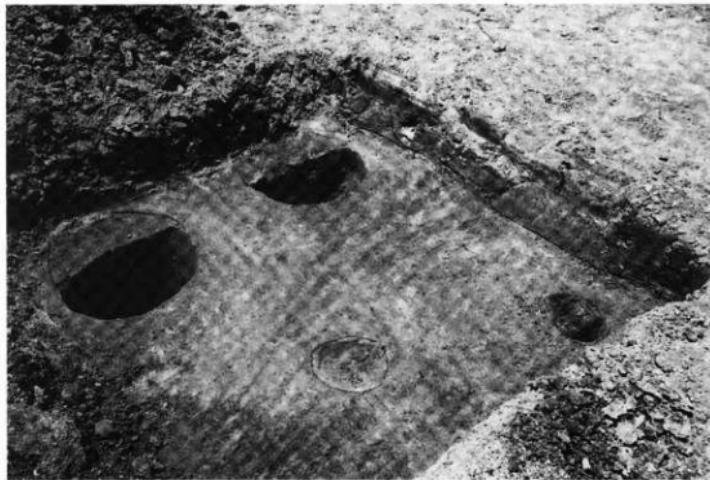
第3期調査区(北から)



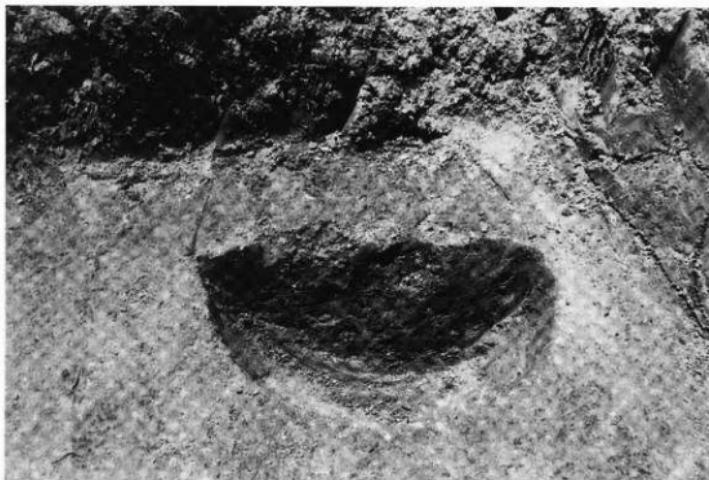
第3期調査区南壁(北から)



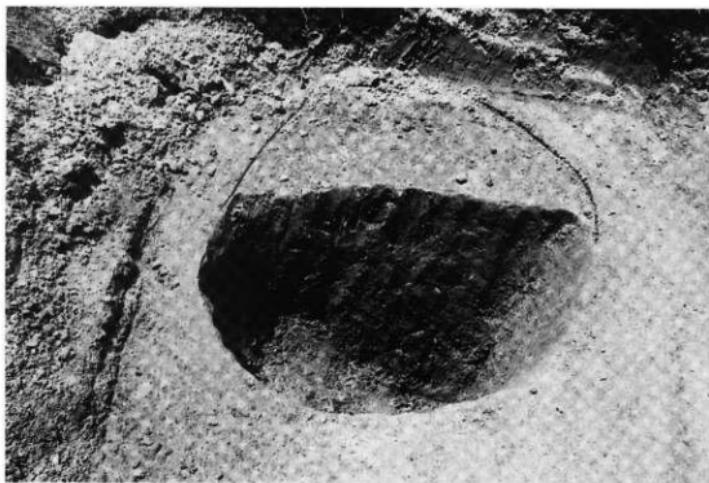
試掘調査風景



T 1 造構検出状況(南東から)



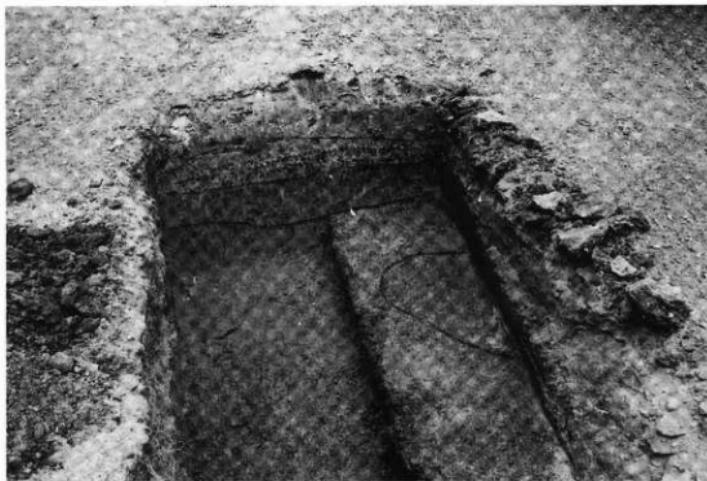
P 1 挖削状況(東から)



P 2 挖削状況(東から)



T 2 挖削状況(西から)



T 2 造構検出状況(北から)



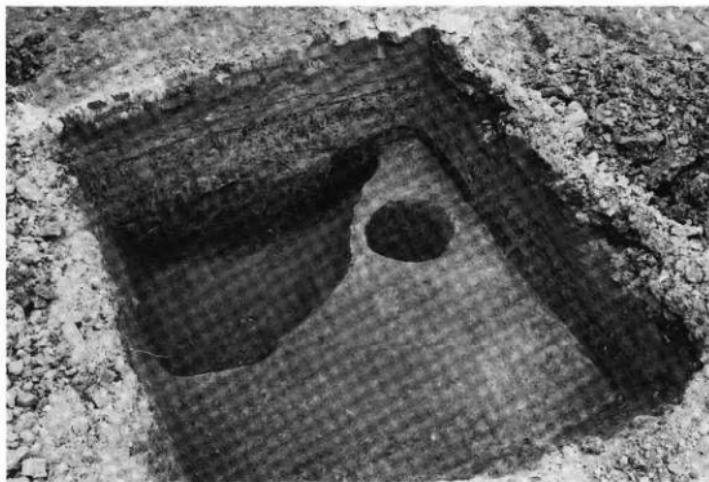
調査地近景(南から)



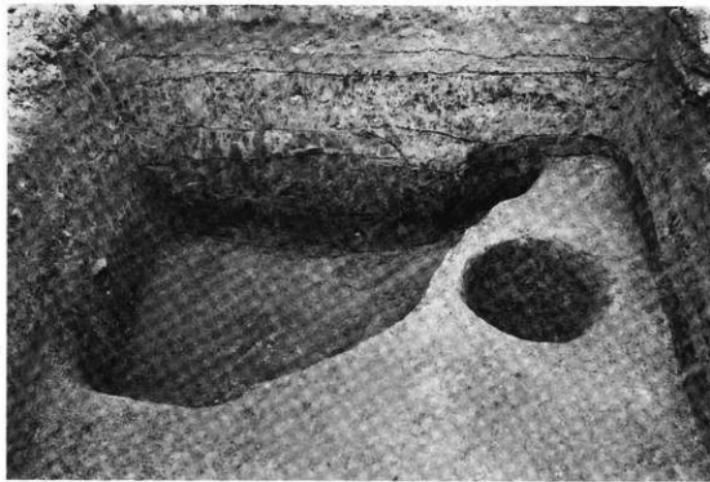
拡大調査風景(北から)



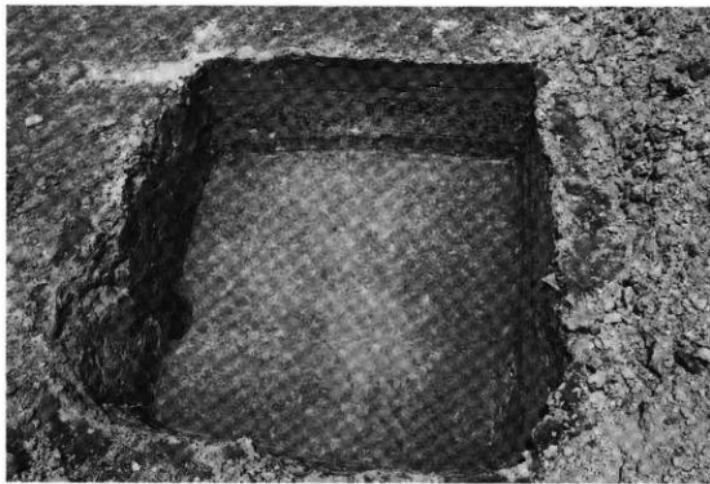
拡大調査風景(南から)



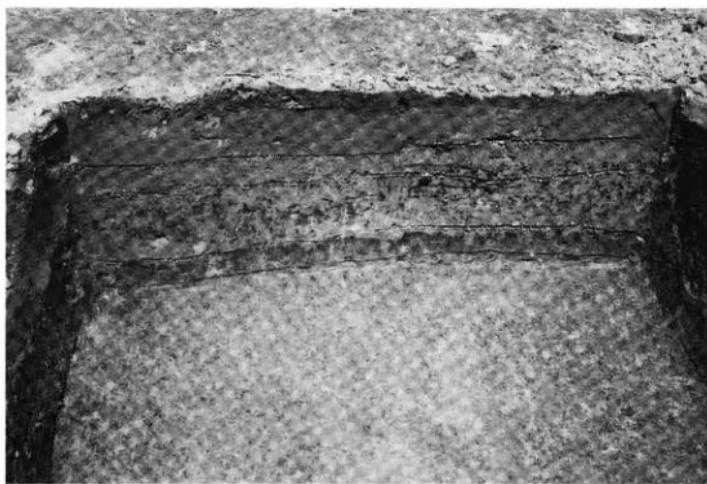
G 1 造構検出状況(西から)



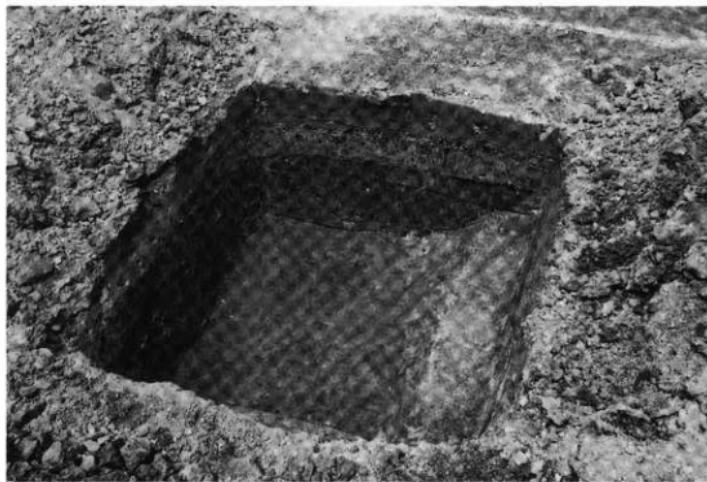
G 1 造構及び断面(西から)



G 2 造構検出状況(西から)



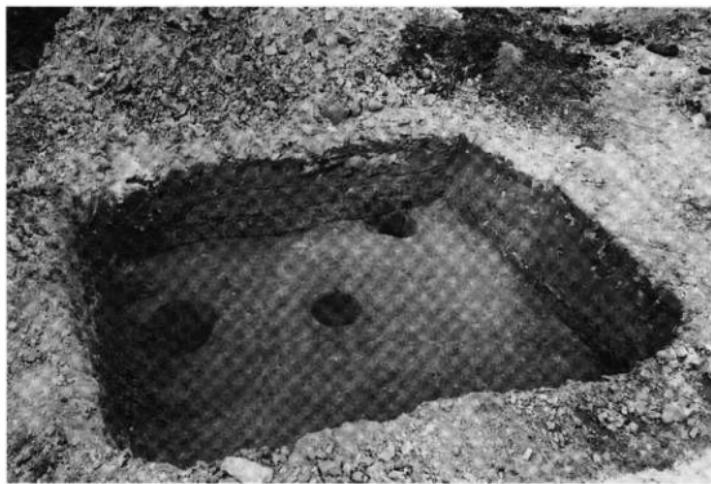
G 2 断面(西から)



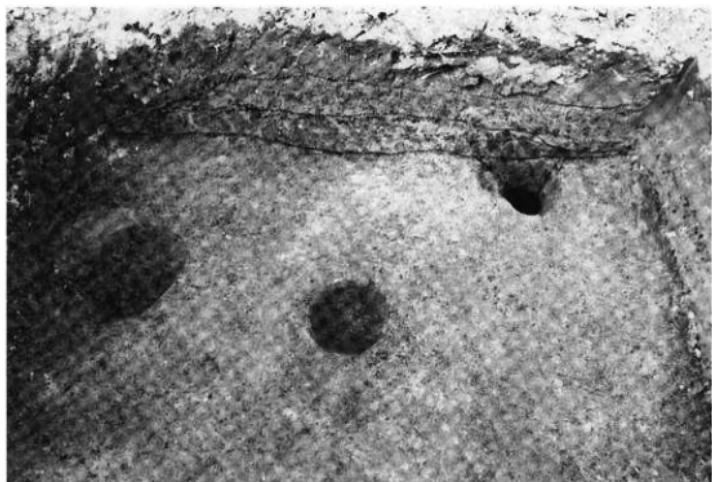
G 3 大溝検出状況(西から)



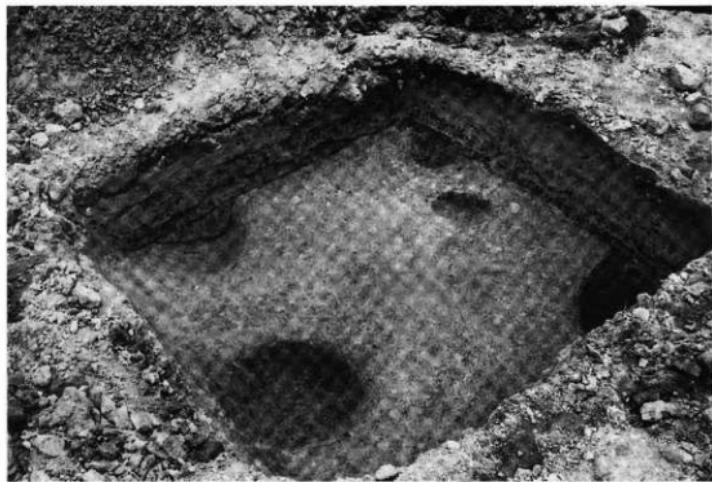
G 3 断面(西から)



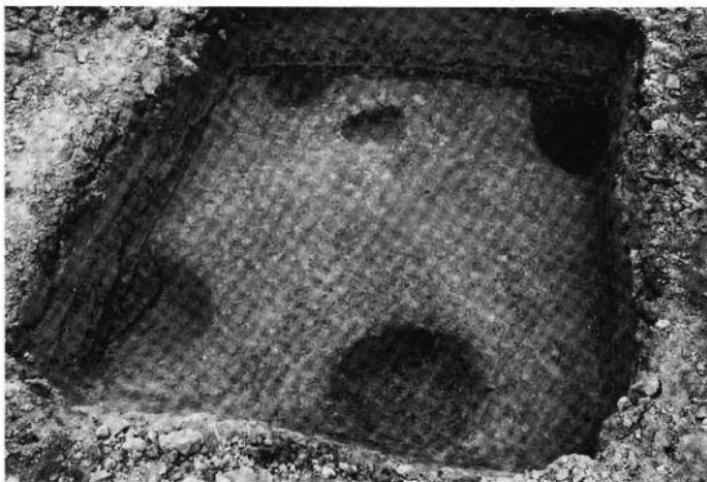
G 4 造構検出状況(西から)



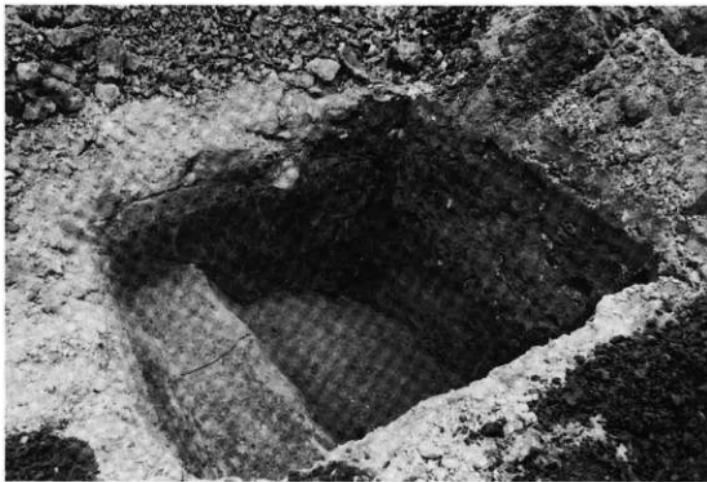
G 4 造構及び断面(西から)



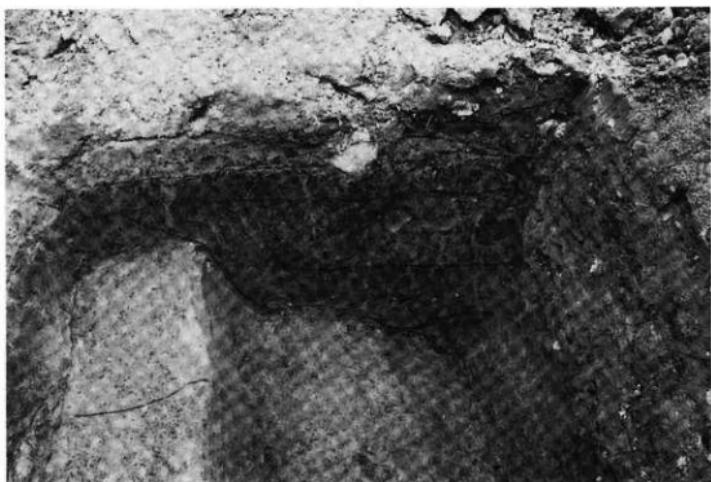
G 5 造構検出状況(北西から)



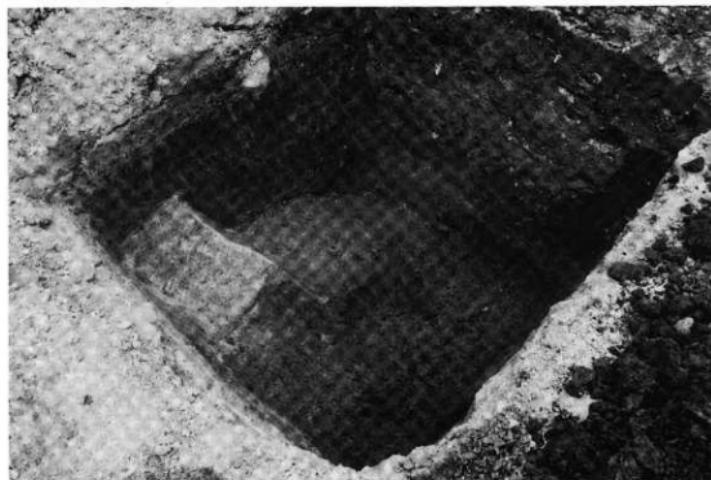
G 5 造構検出状況(北から)



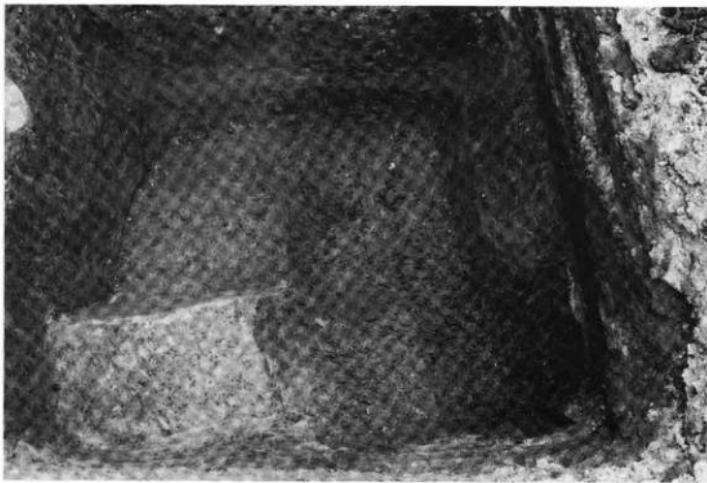
G 6 大溝検出状況(北西から)



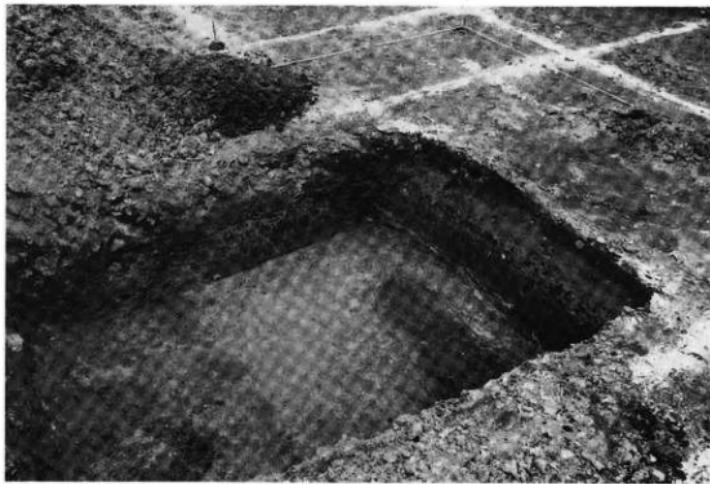
G 6 断面(西から)



G 6 大溝(北西から)



G 6 大溝(北から)



G 7 溝4(北西から)



東区遺構検出状況(南から)



東区遺構検出状況(北から)